しずおか遺産
SHIZUOKA HERITAGE

① 関係自治体	藤枝市・焼津市・島田市・静岡市

② タイトル

（ふりがな）	ぶんぶにひいでたいまがわいちぞく　～でんとうをまもるやまにしのち～

文武に秀でた今川一族　～伝統を守る山西の地～

③ ストーリーの概要

戦国の世、駿河で名を馳せた今川氏。足利将軍家を武で支える一方で、文化を庇護し、とりわけ歌を嗜む家柄であった。駿河に花開いた今川の武と文化は、徳川家康にも大きな影響を与えている。

今川氏が、駿河で最初の領地を得たのは、当時「山西」と言われた志太地域である。「東海一の弓取り」と呼ばれた今川義元が、歴史の表舞台に登場する契機となったのも「山西」の地である。今も伝わる駿河今川氏の「文」と「武」を探しに、いざ「山西」へ。

歌にゆかりの地「富士見平」の眺望

花沢城から望む志太平野

④ 代表連絡先

担　当	藤枝市スポーツ文化観光部文化財課		
電　話	054-645-1100	FAX	054-644-8514
E-mail	bunkazai@city.fujieda.shizuoka.jp		
住　所	〒426-0014 静岡県藤枝市若王子 500		

ストーリー

○駿河の今川氏

戦国大名として名を馳せた今川氏。義元の代には、駿河・遠江・三河を支配し、東海地方最大の版図を有する大名となったものの、永禄（えいろく）３年（1560 年）、桶狭間で織田信長に討たれた。義元没後に衰亡した今川氏は、歴史の敗者として扱われがちであるが、室町将軍家足利氏の血筋にあたる武門の家であり、文化を庇護し、駿河に赴いた将軍と歌会を催すなど、とりわけ「歌」を嗜み、駿河の地に文化を咲かせた名家である。今川の文武は、幼少期を駿府で過ごした徳川家康にも大きな影響を与えている。家康は人質時代、義元の教育係で軍師でもあった雪斎（せっさい）を師とする。義元と家康は、いわば兄弟弟子である。

今川氏の「武」や「文化」を伝えるものの多くは、戦乱により失われたものの、室町時代から戦国時代にかけて駿河を治めた今川氏こそが、家康により花開く駿河の文化の礎を成したと言えよう。

戦国大名今川氏は、駿府（静岡市）を拠点とした。駿府から「高草山」を隔て西に広がる志太地域は、当時「山西（やまにし）」と呼ばれた。「山西」の地と人は、200 年を越える今川氏の節目節目に大きく関わる。

「山西」の範囲

○「山西」から歴史の表舞台に～義元とその父～

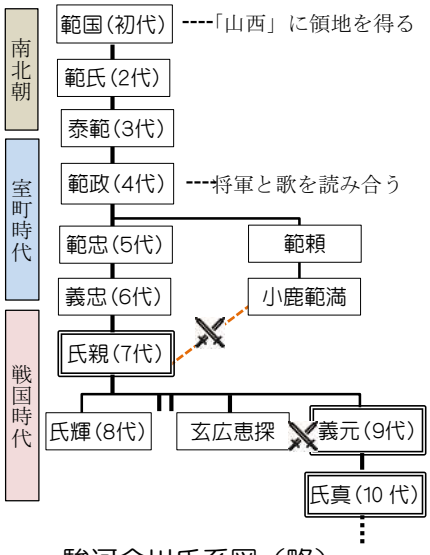
今川氏が盛期を迎えたのは義元（９代当主）の代であるが、戦国大名として基盤を固めたのは、父の氏親（うじちか）（７代当主）である。この二人は、共に家督争いに打ち勝ち、その地位を築いた。２度の家督争いは、「山西」の城が舞台として登場する。

氏親は、父義忠（よしただ）（６代当主）の死去に伴い、従叔父の小鹿範満（おしかのりみつ）と家督相続を争う。氏親を助けたのが、小川城（焼津市）の城主長谷川正宣（はせがわまさのぶ）と石脇城（いしわき）を拠点とした叔父の伊勢新九郎盛時（いせしんくろうもりとき）（北条早雲）である。氏親の家督相続を支えたのが、焼津の人と城であった。「山西」は戦国大名今川氏基盤固めの地である。

将軍が歌会の前に
訪れたと伝わる富士見平

氏親の後を継いだ８代当主氏輝（うじてる）は、短命であった。氏輝が没すると、出家していた二人の弟が家督を争う。兄の玄広恵探（げんこうえたん）は、葉梨城（花倉城（はなくら）：藤枝市）を拠点に、方ノ上（かたのかみ）城（焼津市）を支城に戦うが、弟の梅岳承芳（せんがくしょうほう）に敗れた。乱を制した梅岳承芳は、**義元**と改名し９代目当主となり、駿河今川氏の最盛期を築いた。

この乱で義元を支えたのは、現在の藤枝市を本拠とする岡部氏や朝比奈氏である。今川氏は、駿河における最初の領地として、現在の藤枝市葉梨地区を南北朝時代に得た。そのため、近隣にいた岡部氏、朝比奈氏は早くから今川氏に仕えていた。「山西」は今川氏の駿河進出の故地であり、義元が世に出るきっかけも「山西」の地であり、その支えは「山西」の武士であった。



駿河今川氏系図（略）

○義元の父を支えた「山西」の歌人

「山西」は、今川の文化も支えた。この時代、必須とされた教養の一つが連歌である。今川氏の下で活躍した連歌師が宗長（そうちょう）である。

現在の島田市の出身である宗長は、義元の父である氏親により招聘され、駿府と京を往復し歌の他にも様々な情報を氏親に伝えた。また、宗長は、小川城（焼津市）で城主と３日間にわたり千句を読み継ぐ連歌会を催している。当時の小川は、陸・海交通の要所として栄え、今と変わらぬ豊かな海産物に恵まれた様子が記録に残る。宗長は隠居にあたり、草庵を結んだ。宗長作の伝承を持つ庭園が残る柴屋寺（静岡市）である。なお、宗長は、島田（島田市）で活躍していた刀工の代表的流派、義　助（ぎすけ）の初代の息子である。義助は、今川の武を助けた山西の技といえよう。今川氏の文化は、都と往来した文化人により育まれたが、「山西」の人々も歌や技術で、今川の文化を支えていた。

宗長作と伝わる柴屋寺の庭園

諏訪原城跡

〇氏真の歌と城

桶狭間の戦いでの義元の敗死後、その子**氏真**が家督を継ぐが、武田と徳川に侵攻された。駿府の地を武田に追われた氏真は西に落ちのびる。今川家臣は花沢城（焼津市）や徳一色城（田中城：藤枝市）で抵抗を続けたが、永禄11年（1568年）に戦国大名今川氏は滅亡した。最後まで今川氏を支えたのも「山西」の地と人であった。

方ノ上城跡で行われる
のろし揚げイベント

なお、氏真は生きながらえ、後に家康の諏訪原城（島田市）攻めにも参加し、攻略後、一時的に城主にもなった。この時、詠んだ和歌も伝わる。その子孫は江戸時代には儀式や典礼に関わる高家となり、明治時代まで家名は続いた。「山西」を拠点とした家臣、長谷川や岡部、朝比奈も家名を残す。小川城主長谷川氏の子孫の一人は、江戸時代に火付盗賊改として活躍し、小説の主人公となった長谷川平蔵である。

〇今も支えるのは「山西」の人

戦国大名として名を馳せた今川氏、後に侵攻した武田や徳川の活躍により人々の記憶から失われたものは多いが、「山西」の人々により今川の遺産は、今も伝えられている。

一つは、食である。今川氏の重臣、朝比奈氏は出陣時に「ちまき」を携行したという記録が残る。地元では「朝比奈ちまき」として、これを再現した。「山西」の人々の力で復活した今川時代の食である。また、焼津市小川漁港では、今川時代の書物に記された豊かな海産物を今も楽しむことができる。

もう一つは、伝統芸能である。「藤守の田遊び」（焼津市）、「滝沢八坂神社の田遊」（藤枝市）は、今川時代に発達した能や狂言などの芸能の要素を残す伝統行事である。焼津神社の大祭で使用される獅子頭も、オリジナルは今川時代の所産である。また、藤枝市に伝わる「朝比奈大龍勢」は、戦国時代に朝比奈氏と岡部氏が、のろしを上げて連絡を取り合ったことに由来すると言われる。いずれも、「山西」の人々の力で現代にまで受け継がれてきた今川時代の伝統である。焼津市の方ノ上城でも、伝承を基にした「のろし上げ」のイベントが、秋に行われている。

今川氏や家臣の古文書や供養塔を伝えてきた社寺、ハイキングコースとなった合戦の舞台の山城を巡り、地元で守り、再現した今川時代の伝統に触れれば、今川氏栄枯盛衰の物語と今なお今川氏の遺徳を偲び、伝統を守る山西の人々が織りなす戦国ロマンの新たな一頁が、あなたの心に刻まれるだろう。

しずおか遺産
SHIZUOKA HERITAGE

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
①	富士見平（ふじみだいら）	未指定 （名勝）	駿府で歌合せをした将軍足利義教が、富士山を眺めたといわれる蓮華寺池公園内の眺望ポイント。将軍は山麓の鬼岩寺（きがんじ）に宿泊した。	藤枝市
②	林叟院（りんそういん）	未指定 （史跡）	氏親（義元の父）を庇護した小川城主長谷川正宣の墓が残る。当時の小川城の文化や交流を示す出土遺物は、焼津市歴史民俗資料館に展示。	焼津市
③	石脇城跡（いしわきじょうあと）	未指定 （史跡）	氏親（義元の父）の家督争いの際、伊勢新九郎盛時（北条早雲）が拠点とした。	焼津市
④	葉梨城（花倉城）跡（はなしじょう　はなくらじょう　あと）	市指定 （史跡）	義元と家督を争った玄広恵探方が抵抗の拠点とした山城。山頂からは志太平野を一望できる。	藤枝市
⑤	徧照寺（遍照光寺）（へんじょうじ　へんじょうこうじ）	未指定 （史跡）	義元と家督を争った玄広恵探は、遍照光寺の住持であった。今川３代泰範等の供養塔がある。	藤枝市
⑥	方ノ上城跡（かたのかみじょうあと）	未指定 （史跡）	葉梨城（花倉城）の支城。のろしにより葉梨城と連絡を取った山城と伝わる。	焼津市
⑦	岡部家文書（おかべけもんじょ）	市指定 （有形文化財）	義元が、花蔵の乱における岡部氏の戦功を讃えた古文書。藤枝市郷土博物館・文学館で公開。	藤枝市
⑧	朝日山城跡（あさひやまじょうあと）	市指定 （史跡）	今川家の重臣、岡部氏が築いたといわれる山城。	藤枝市
⑨	朝比奈城址（あさひなじょうし）	未指定 （史跡）	今川家の重臣、朝比奈氏が築いたといわれる山城。谷を挟んで２つの尾根に曲輪が築かれている。	藤枝市
⑩	野田城跡（大津城跡）（のだじょうあと　おおつじょうあと）	未指定 （史跡）	南北朝時代に、今川２代範氏が攻略した大津城にあたると言われる。その武功は、今川氏の駿河進出の契機の一つとなった。	島田市
⑪	宗長庵址（そうちょうあんし）	市指定 （史跡）	戦国時代の島田で生まれた連歌師宗長を偲んで建てられた庵址。	島田市
⑫	駿河の水産物（するが　すいさんぶつ）	未指定 （無形民俗）	今川時代の書物には、駿河の豊富な水産物の様子が記される。現在、焼津漁港は鰹の水揚げ量日本一を誇り、浜通り地区は漁村の景観を残す。	焼津市
⑬	柴屋寺庭園（さいおくじ）	国指定 （名勝及び史跡）	連歌師宗長が結んだ草庵。柴屋寺の庭園は、宗長自らが作庭したことが『宗長手記』に記されている。	静岡市

⑭	五条義助の刀剣類	未指定 （美術工芸品）	五条義助は、室町時代～江戸時代（1450 年頃～1850 頃）に活躍した刀工集団。島田市博物館では所蔵刀剣などを、定期的に公開。	島田市
⑮	花沢城跡	未指定 （史跡）	駿府・山西間の日本坂峠越えの街道を抑える今川方の山城。武田信玄との激戦地として知られる。	焼津市
⑯	徳一色城跡（田中城址）	市指定 （史跡）	山西における今川氏の拠点的な城郭。武田氏の侵攻の際には長谷川次郎左衛門尉正長が籠城。正長の墓は信香院（焼津市）に残る。	藤枝市
⑰	諏訪原城跡	国指定 （史跡）	徳川氏と武田氏が攻防を繰り広げた国境の城。徳川氏の攻略後、今川氏真が城主を務めた。	島田市
⑱	置塩家文書（今川氏真和歌）	未指定 （美術工芸品）	置塩家は、今川家の家臣と伝わる旧家。今川氏真が牧野城（諏訪原城）在番時に詠んだ和歌も残る。島田市博物館の企画展で公開。	島田市
⑲	朝比奈ちまき	未指定 （無形民俗）	戦国時代、朝比奈氏が出陣する際に携行し、常勝したといわれるパワーフード。	藤枝市
⑳	朝比奈大龍勢	県指定 （無形民俗）	全長 10ｍを超える勇壮な打ち上げ花火で、戦国時代の岡部氏・朝比奈氏がのろしを上げて連絡を取ったことにちなむと伝わる。	藤枝市
㉑	藤守の田遊び	国指定 （無形民俗）	平安時代より続くと伝わる。現在の形式は今川支配下の室町時代に確立された。毎年３月 17 日に公開。	焼津市
㉒	滝沢八坂神社の田遊	県指定 （無形民俗）	田植から稲刈りまで 19 演目を舞う。今川支配下の室町時代に発達した能・狂言の影響を残す。毎年２月中旬に公開。	藤枝市
㉓	慶寿寺	未指定 （史跡）	今川２代範氏の菩提寺。今川家関連文書や伝今川範氏の供養塔が伝わる。	島田市
㉔	長慶寺	未指定 （史跡）	今川３代泰範の菩提寺。義元の軍師、雪斎が再興し、泰範・雪斎の供養塔（市指定）や、今川氏が発給した古文書が残る。	藤枝市
㉕	萬松院	未指定 （史跡）	今川氏の重臣である岡部氏の菩提寺。供養塔（市指定）が残る。	藤枝市
㉖	焼津神社	未指定 （史跡）	今川氏歴代に庇護された式内社。大祭で用いられる獅子頭は室町時代が起源。当時のものも現存。	焼津市

構成文化財の写真一覧

①富士見平

富士見平からの眺望

②林叟院

③石脇城跡

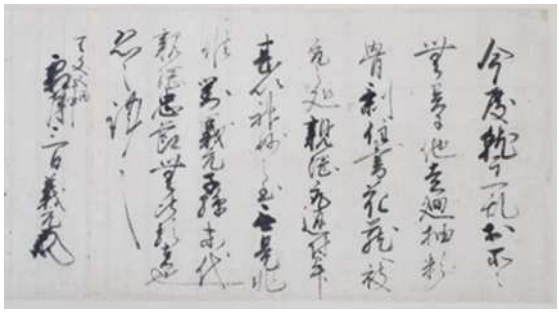
④葉梨城（花倉城）跡

⑤徧照寺（遍照光寺）

今川範氏らを祀った供養塔

⑥方ノ上城跡

⑦岡部家文書



花蔵の乱での武功が記される

⑧朝日山城跡

⑨朝比奈城址

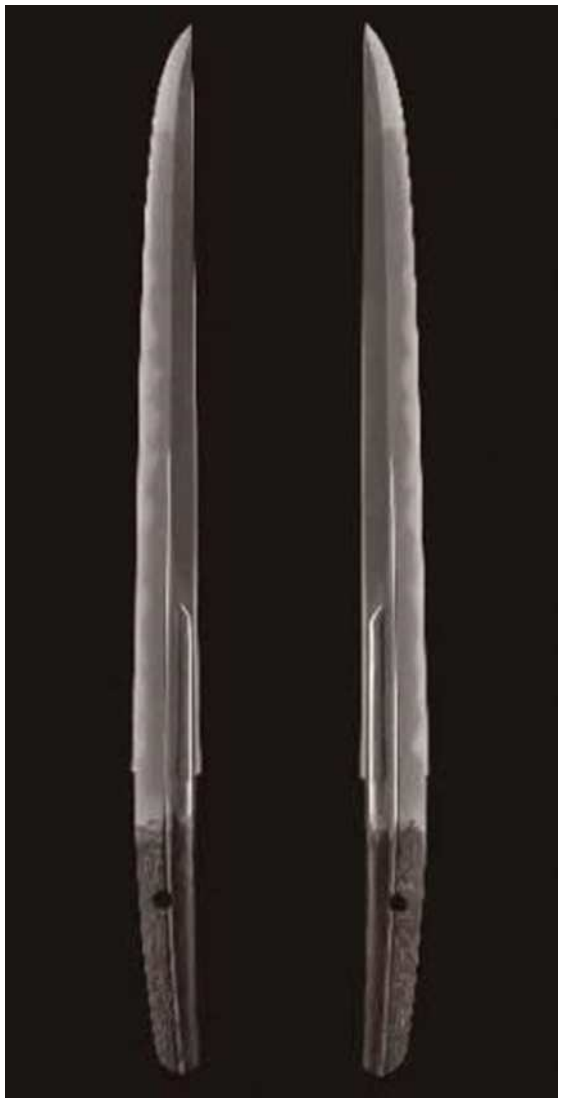
⑩野田城跡（大津城跡）

⑪宗長庵址

⑫駿河の水産物

⑬柴屋寺庭園

⑭五条義助の刀剣類（短刀　銘義助）



⑮花沢城跡

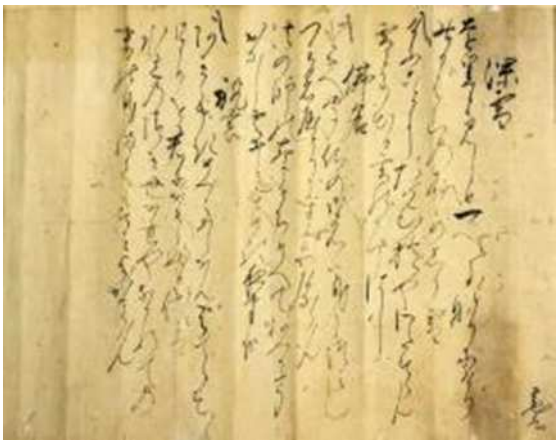
八の曲輪

⑯徳一色城跡（田中城址）

三之堀

⑰諏訪原城跡

⑱置塩家文書



今川氏真和歌

⑲朝比奈ちまき（復元）

⑳朝比奈大龍勢

㉑藤守の田遊び

㉒滝沢八坂神社の田遊び

㉓慶寿寺

今川範氏の供養塔

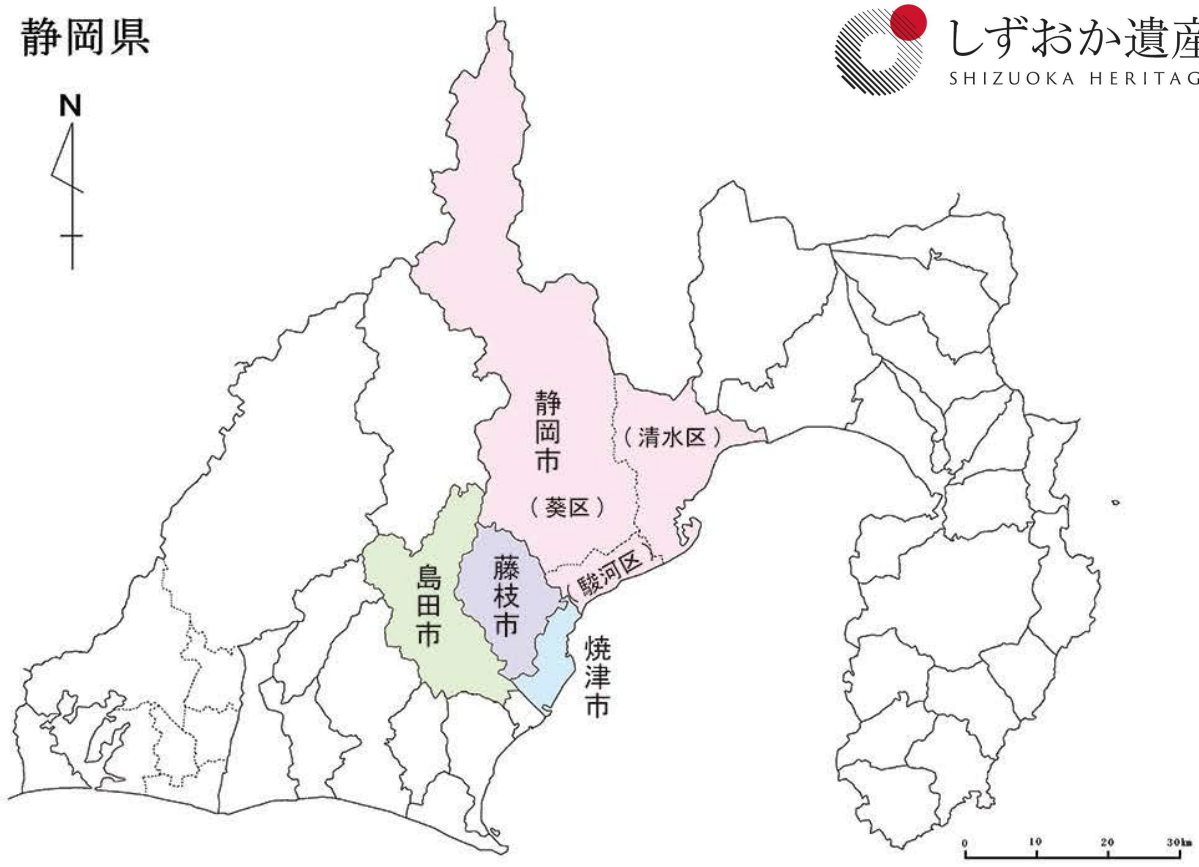
㉔長慶寺

㉕萬松院

岡部氏墓

㉖焼津神社

手前：拝殿、奥：本殿



1　市の位置図

2-1　藤枝市・静岡市の構成文化財の一部

2-2　焼津市の構成文化財の一部

2-3　島田市の構成文化財の一部

(2-1、-2、-3 は同一縮尺)